

科目区分 : 音楽文化コース

授業科目名 : ピアノ④

ロマン派のピアノ作品 豊かな表現のための演奏技術

音楽教育 森山 伸

授業の概要

受講者4名のグループレッスンである。受講生は、ピアノ①～③を習得している。前期ピアノ③では、2年次の研究テーマであるロマン派ピアノ曲の中から、練習曲を採り上げショパンとリストの演奏法を技術的な視点から研究した。後期のピアノ④では、練習曲以外のロマン派作品を採り上げ研究を進めている。

公開授業

第6回目の授業を公開し、同時にカンファレンスを実施した。第5回までに採り上げている曲目は、

ショパン作曲 幻想曲
バラード第1番
夜想曲作品32-2

シューマン作曲 アベック変奏曲
ソナタ第2番

以上である。

曲の選択は、受講者本人の希望に添って相談し決定した。4名全員、手は大きくはなくポジション移動の高度な技術が演奏に求められる。今回の授業では、2名の受講生によるシューマンのアベック変奏曲とショパンのバラード第1番を採り上げた。1コマ90分の時間内では全員の持ち曲を採り上げるのは不可能であるため、毎回2～3名の受講生の演奏に対してのレッスンを行い、授業を進めている。聴講する学生に対しても具体的な事例をとおして、同じロマン派の作品に共通する問題を提起して、自分の演奏作品への理解が深まるようにしている。

最初に採り上げたシューマン作曲のアベック変奏曲は彼の作品1となる曲であり、ピアニストを目指す作曲家本人の情熱と詩的な世界が展開される技巧的な作品である。演奏に際しては、素となる情熱を如何に共感し表現する熱意を持っているかが最も重要な課題になる。今回演奏をした受講生は、楽譜から読み取る音楽と表現方法、演奏技術に多くの課

題がある。変奏曲の主題演奏は最も重要であるため、再度スラーの架かったフレージングの音楽的な意味とシューマンの楽譜に特徴的なアクセント記号の持つ表情に対しての的確な打鍵を説明し実践した。最初の主題では右手のオクターヴ移動が続くため、手の小さな奏者には、肩関節を柔軟に活用したポジション移動の技術が不可欠である。受講者は腕の動作の問題を解決し、演奏が容易になった。

主題に続くヴァリエーションは上体の幅広い移動、和音の把握、主旋律を含む片手による和音のフレージング、複雑な声部の音色を変えた弾き分け等が必要な第1変奏、2声部の絡み合う歌と適切なバランスを保った伴奏や、楽譜に示されたアクセントの表現等が難題となる第2変奏、急激なスケール・半音階やアルペッジョに対応する指先のタッチと左腕のポジション移動が必要な第3変奏など、Finale. Allegro以外の部分に対しての技術と表現法のレッスンを行い、課題となる、小さい手を持つピアノ奏者に必然の演奏技術の習得につとめた。この受講生が適正な演奏技術の獲得に近づくことで、更に多くのロマン派作品に対して理解力が増すとともに表現の幅が広がるように指導を続けたいと思う。

つづいて採り上げた作品は、ショパン作曲バラード第1番である。ピアノを学ぶ学生には欠かすことの出来ない曲でもあり人気が高い。今回演奏した受講生は手がとても小さくて、1オクターヴがやっと届く程度である。ショパンの最も充実した時代の作品で劇的な表現力が求められる曲のため、手の小ささは大きな困難を招く。大音量をピアノから引き出すためには、肩甲骨からの腕の長さを活用した奏法と上体の重さを鍵盤に伝える腰の動作が必要である。更に限界に達する和音を把握し移動する技術とアルペッジョやスケールに必要なポジション移動の技術が求められるが、最も必要なものは壮大なこの曲を演奏するための創造力である。今回の受講生は、曲

に対してのイメージはあるものの、それを具体化するにあたっての技術が不足している。上体の姿勢を保つことが難しく、腕からの動きの伝達に課題がある。原因は2つあり、一つは手を広げすぎること、腕が強張ることと、もう一つは感情の表現が、身体を冷静にコントロールするというピアノ演奏の基本を妨げるためである。演奏中の想いが高まるほど身体が固まった状態に陥りやすくなっている状況である。ピアノの奏法は大学入学以前の学習にも大きく影響されるが、良い指導者を目指すためには、根気強く自分の手の大きさに適合する技術の改良が求められる。授業は主にフレージングと、それに伴うポジションの移動、テンポ・ルバート、求める音色を造るためのタッチの指導を行った。現在2回生ではあるが学習の方向性を見極めて、長い時間を懸けた指導をする必要があると思われる。

ピアノ④の授業の目的はロマン派の作品への理解と演奏であるが、受講者には作品の精神性と自信の存在性を関連付けた演奏を行って欲しいと願っている。ピアノ⑤⑥は近現代の作品を研究するが、ロマン派特有の表現力を学ぶことで、近現代作品に違和感なく繋がる授業になることを目指したい。

カンファレンスの内容

公開授業を参観した教員からは次のような意見を得た。

- 1) 「指だけでなく腕・体幹を使うこと」「気持ちのヒント・強調の仕方」上手く使えている。
- 2) 表現教育の観点から他の授業（例えば指揮法等）とのコラボレーションの可能性も考えられる。
- 3) 4名の小集団での授業として、演奏者以外のどの様に意欲付けするかに難しさがある。

3) の意見に対しては、ピアノ③においては共通の課題を課しているため、問題が無いが、ピアノ④においても共通の課題を加えることを検討し授業の向上を図りたい。